

新聞記事切り抜き(流体研記事)

平成 28 年 8 月 26 日 (金)

2016年(平成28年)8月26日・金曜日

日刊工業新聞

産業春秋

夏の花火大会シーズ中国や台湾などに拠点
ンも残りわずか。夜空が移ってしまった▼仙
に咲く大輪は科学技術台で開かれていた同分
の結晶でもある。花火野の世界最大の国際会
の色や明るさは火薬に議が25日、閉幕した。
詰める金属の種類で変日本での開催は11年ぶ
わり、形の表現には高り。というのも日本に
度な設計が求められナノテクの学会がなく
る。花火玉には多くの招致活動が「一筋縄で
繊細な技術がつまてはいかなかった」と、
いる▼花火をミクロの組織委員長で東北大学
科学とすれば、ナノの教授の寒川誠二さんは
科学がナノテクノロジ漏らす▼ナノテク先進
1。1ナノは髪の毛の国の米国は、社会への
5万分の1の細さとい「出口」をまず考え、
う極微の世界だ。かつそれに沿って多様な分
て米国では、1個の角野の研究者が連携す
砂糖に図書館が収まる。一方の日本は、今
といううたい文句で推でも分野ごとに懸命に
進された▼日本はカー出口を模索している段
ボナノチューブなど階だ。多様な技術を融
代表的なナノテク材料合すればこそ、いずれ
を世に出してきた。そ花開く。日本でナノテ
うした自負の半面、アクが大輪を咲かせる日
ジアのナノテク研究ははいつになるのか。